

スイゲンゼニタナゴの保護対策

(1) 種名 (学名)

スイゲンゼニタナゴ

(*Rhodeus atremius suigensis*)

環境省レッドリスト 2018：絶滅危惧 IA 類 (CR)

国内希少野生動植物種 (H14 指定)

保護増殖事業計画 (H16 策定)



(2) 生態の概要

- ・ 全長約 4 cm で、日本に分布するタナゴ亜科魚類の中で最も小型です。
- ・ 約 1 年で成熟し、寿命は約 2 年とされています。
- ・ 4 月～7 月頃にイシガイやマツカサガイなどの淡水二枚貝類の^{えら}鰓に産卵します。
- ・ 平野部から山間部にかけて分布し、中小河川や自然河床の残る流れの緩やかな灌漑用水路などに生息しています。

(3) 分布状況の概要

- ・ 岡山県の吉井川から広島県の芦田川にかけての 5 水系 (吉井川、旭川、笹ヶ瀬川、高梁川、芦田川) のうち、一部の水域に生息しています。かつては兵庫県にも生息していましたが、現在は絶滅したとされています (兵庫県版レッドリスト 2017)。

(4) 減少要因

- ・ 都市化や圃場整備等に伴う河川中・下流域や水路の改修、水質汚濁等の影響による本種及び産卵基盤である淡水二枚貝類の生息環境の悪化。
- ・ オオクチバス等の肉食性外来魚による捕食、同タナゴ亜科バラタナゴ属であるタイリクバラタナゴ等の近縁種との競合。
- ・ 違法捕獲 (観賞魚として流通) 等の採集圧。

(5) 中国四国地方環境事務所の取組

- ・ 密漁対策パトロール (H18～)
地元保全団体と協力し、密漁及び生息環境の監視を実施しています。
- ・ 分布状況や繁殖・生態等の調査 (H18～H27)
他のタナゴ類 (外来種含む) との二枚貝をめぐる競合、二枚貝への寄生生物による影響と駆除方法の検討、二枚貝の生息に適した環境条件 (河床の状態、流速等) 等について情報を収集しました。また、生息地のうち、水路での生息環境条件の調査等を実施しました。

- ・ 生息域外保全の試行（H21～H23）
人工飼育を試行的に実施し、飼育・繁殖技術を一般化・省力化するためのデータ蓄積、簡便な一時避難的飼育手法を開発しました。
- ・ 専門家会議、関係機関による連絡調整会議の開催（H16～）
本種とアユモドキの2種について、有識者、保護団体等による専門家会議と、関係する自治体の自然環境部局や河川部局を対象とした連絡調整会議を開催しています。河川工事等においてスイゲンゼニタナゴへの影響を軽減させるため、事前調査や工事時の個体保護、影響の少ない工法の採用等につながるよう、生息分布や、本種の生息に配慮した工法などの情報提供や周知を行っています。これに関連して、平成28年3月以降、「アユモドキ・スイゲンゼニタナゴに配慮した事業実施ガイドライン」を作成、関係行政機関へ配布しています。
- ・ 分布及び遺伝子調査（R元～）
分布状況の把握と遺伝子分析のため、一部の地域で調査を実施しています。

（6） 他機関、NGO等の取組

- 芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会、スイゲンゼニタナゴを守る市民の会
近年、生息箇所及び確認数が減少し、絶滅が危惧されている芦田川水系の個体群について、芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会（事務局は福山市環境保全課）が設置され、スイゲンゼニタナゴを守る市民の会とともに、本種の保全事業が実施されています。
- 岡山淡水魚研究会、倉敷水辺の環境を考える会
主に岡山県内の水系において、生息地のパトロールや生息状況調査を行うとともに、河川改修等の工事の際に、同種の保全に係る助言等を実施されています。

（7） 課題

- ・ スイゲンゼニタナゴ及び淡水二枚貝類の生息に適した環境の保全及び改善
- ・ 違法捕獲の抑止
- ・ スイゲンゼニタナゴ及び淡水二枚貝類の分布状況等最新の知見の集積
- ・ 外来種の防除等によるスイゲンゼニタナゴの生息への影響の軽減

（8） その他（参考文献、HP等）

スイゲンゼニタナゴ保護増殖事業計画（平成16年7月29日）

http://chushikoku.env.go.jp/wildlife/mat/data/m_1_2/m_1_2_1.pdf

リーフレット「知っていますか？岡山の水辺の宝もの」

http://chushikoku.env.go.jp/wildlife/mat/data/m_1_2/m_1_2_3.pdf

中国四国地方環境事務所HP「【注意】スイゲンゼニタナゴの取り扱いについて」

http://chushikoku.env.go.jp/to_2014/0407a.html